

# 金婚式の記念に 夫婦の出発点である母校へ



50年前、ランバス記念礼拝堂で挙式された清水紀幸さん（1968年・法学部卒）、浩代さんご夫妻。金婚式の記念にと5月5日に写真撮影を行い、改めてご夫妻の思い出を形にされました。当時の思い出をはじめ今の気持ちなど、お話を伺いました。

結婚式の日のことを  
覚えていただけますか。

**浩代** 結婚式を挙げたのが5月5日だったので、今日がちょうど50年です。挙式の前日はその後の人生を予感させるような（笑）激しい風雨だったのですが、当日は今日のようにいいお天気で、キャンパスの新緑が気持ち良かったのが印象に残っています。

**紀幸** ウエディングドレスが手作りでしたので驚きました。

**浩代** 神戸元町でふくら織の生地を買って、妹が作ってくれました。細身のデザインで、ベールも全部手作りでした。当時はスカートがふんわりとしたお姫様風のデザインばかりだったので、妹と二人でデザインを考え思い出し深いドレスになりました。

**紀幸** 当時、結婚産業はまだ未成熟の時代で、教会か神社、ホテルでの挙式が一般的。神社や教会で挙式をすれば披露宴は別の場所への移動が必要でした。その点、ランバス記念礼拝堂

だと大学生協がありましたから、バタバタせずに済むというのもあっていいなと思いました。私の先輩がここで挙式されて出席した経験から、全ての条件を満たしてくれるのが母校だと思いました。

**浩代** 披露宴のお料理も満足できる内容でしたし、移動距離も短くて良かったです。ただ、父がお酒好きだった。

たのに、決まりで紅白のグラスワインが1杯ずつしか提供されなかったのので、父はとても残念がっていたと母に聞かされましたけど（笑）。

結婚後、関学を訪れることはありましたか？

**紀幸** 32歳で東京に転勤になってからは関東暮らしですが、友人が社会学部の教授で、一緒に仕事をする機会があり、何度か母校には来ていました。

**浩代** 結婚前には会社の関学出身の方に連れられて学食にきたことがありますが。その時に食べたカキフライ定食（当時、一番高いメニュー）がとっても美味しかったのは印象に残っています。結婚後は一度も来ていなくて、今日が初めてです。

今回、金婚式に記念撮影を行うことにした経緯をお聞かせください。

**紀幸** これまでの結婚記念日には食事に行ったり、記念の物を贈ってきましたが、私たちの年齢になると、物はいらないとなりました。二人とも元気でいるので、せめて記念日を祝える形はないものかと考え、結婚式を挙げたランバス記念礼拝堂で写真を撮ろうと思いついたわけです。

今日の撮影会の段取りはどのように進められましたか。

**浩代** 写真なら邪魔になりませんので、夫の希望に付き合うことにしました（笑）。

**紀幸** 私は写真部の同窓会でオハラホールを利用したことがありました。

今回、ランバス記念礼拝堂での撮影を思いついた時に、コロナ禍ということもあって勝手に入ることは憚られたので校友課の方に相談したら、色々と段取りをしてくださりました。写真部員として関学の風景を写真に撮ることは今までにもありましたが、自分が写ることにはなかったので、本当にいい機会になりました。

関西学院での挙式の魅力について、50年経った今、どう感じられますか？

**浩代** 結婚式以来、訪れていませんでしたが、当時のままですね。長い結婚生活には紆余曲折もありますが、自然と調和した大学の美しいチャペルで挙式できたことは、いつまでも幸せなビジュアルとして記憶に残っています。改めて夫婦で写真が撮れて、金婚式の記念としてはいい選択だったと思います。

**紀幸** ホテルや民間の結婚式場だと改

築されて形が変わってしまったり、無くなってしまうこともあるでしょう。その点、母校（特に関西学院）は無くなりません。私たちが挙式したランバス記念礼拝堂は、50年経った今もそのままの姿で存在します。夫婦の起点がいつまでも残っていて、子供や孫に「ここが家族の出発点だよ」と伝えることができるのは、長い人生でも大切に素敵なことだと思います。

